



とても、強くでていると思う。また、この言葉は、自分だけじゃなく、世界中の人が、思っているだろう。いや、きっと、思っているのにちがいない。だから、いつまでも、この地球が、平和で、いられるように、なっていたら、いいなあと思った。



頭から離れない福竜丸

和歌山県串本町潮岬中学校三年 林 正明

旅行第三日目、いくつかの見学地をあとにし、ここにやってきた。福竜丸は、大きな建物の内に、坐っているように置かれてあった。中に入っていくと、静かで、ひんやりとした感じがした。それは、写真で見たより大きかった。その

大きな船体は、長い間、雨、風にうたれていたかのように、あちこちいたんでいた。館内には、いろいろと、多くのものが展示されていた。ある掲示物を読んで、一番印象に残ったのは、放射能汚染のため当時廃棄されたマグロ、四百五十七トン、被害を被った船は八百五十六隻という文章だ。僕は驚いた。

次々と、見ていると驚くことばかりだった。その中で、いくつかが、不思議に思ったことがある。その一つに、アメリカの新聞が、福竜丸の被爆について小さい扱いにしかしなかったこと、いうことについて、「アメリカは、たいして悪いことなどして



久保山愛吉さん—すばらしい人だな

大田区立矢口中学校二年 佐藤 順子

社会科見学に行つて私が一番印象に残っているのは、第五福竜丸を見物しに行った事を一番書きたいので書きます……

私は最初はつきり言つて福竜丸と言うものを想像も出来ませんでした。初めは、なんか星座とか星の「プラネタリウム」みたいなものかなとさえ思っていました。でも第五福竜丸のおねえさんが説明しているのをよく聞いてみると私が思っていたのは、せい反対でした。私は第五福竜丸のお姉さんの話を聞いてると早く見学したいと言う気持ちにさえなりました。話しを聞いただけですごいんだなと思いました。そして話しも終わりついに見学することになりました。私は、第五福竜丸の大きな船を見た瞬間思わず「やーっかいー」と言つてしまいました。私が思っていた船より何倍も何十倍も大きかったので私はものすごくびっくりしたのかんげきしたのととてもうれしかったです。第五福竜丸を見た後それに乗つて

いた人達も見ました。私は、まさか乗っていた人の写真があるとは思っていませんでした。最初は、みんな乗る前だったのか、顔が笑顔でした。私は、その笑顔でうつっている顔をながめていると、とてもかわいそうになつてしまいました。

しかもその当時使っていたふとんなどもあったしほうしゃのうでお父さんをなくした、家族の家の写真もありました。私は、また思いました。一人の人の命がなくなるといふ事は、本当にすごいことなんだなとつくづく感じました。それに第五福竜丸のある外には、死んだ人の言葉が書いてあった物もありました。よくは、覚えていませんが、「このような苦しみを受けるのは、私が最後にしてくれ」みたいな事が書いてあると言っていました。あの言葉は、死ぬ前に死ぬすんぜんにあの言葉を言ったのかと思つたりもしました。

私は、もしあの言葉を死ぬすんぜんに言ったのだとしたらすばらしい人だなとも思いました。それにいるんな苦労をしている人やげんばくなどでやられた人の写真もありました。私は、その写真を見て本当に今の世の中は、本当に幸せと言つても言いきれないほどのぜいたくを

時間のあるかぎり

和歌山県串本町潮岬中学校三年 小島 有紀

初めて行くから、ルンルン気分で「どんなかな」とか、思つたりしていたが、中に入って、見たり、読んだりしたら、それは、口に出せないほど、無残だった。自分は、正直言つて、こんなもん、なにもおもしろくないから、適当に、終わらせようと思つていた。

しかし、みんなが、とても、真剣に、読んでいたし、自分もなにげなしに、読んでみたら、本当に涙が出そうなくらい、かわいそうだと、つくづく思い、時間のあるかぎり、集中して読んだ。

そして、読んでいると、「あっ」と思つた。なんと、第五福竜丸は、和歌山県の古座で造られた船だった。し

しているんだなと思つた。最後に第五福竜丸を残すかどうかという問題が少しおきたと言つた話を聞いていたが、私は、残して本当によかったのではないかなと思つた。

ぼくは、「どうして」アメリカが、このような実験をしたのだから、なんにも関係していない人達までも、犠牲になつてしまつたのだ。また、久保山愛吉さんが、死ぬまでに、書いた手紙の内容に「私達みたいになるのは、これで最後になるように……」と書いていた所は、二度と、水爆実験がおこなわれないようにと願う気持ちが、

いない、でも思つたのだらうか。」ということだ。そういう考えをもっているから、核兵器などが多く作られているのではないだろうか。そう思いながら次々と見ていった。その中でまたひとつ驚いたことがあった。

アメリカが、「戦争をなくすために核実験をする、これは人類の福祉と平和のためだ」と、言っていることである。この核実験は、福祉や、平和のためではないと僕は思う。戦争をなくすための手段は、いくつかあると思う。僕は、アメリカの考えは、間違っていると思う。この間違つた考えがあるかぎり、戦争は、なくならない。そう思いながら見ていたがついに時間がやってくる、その福竜丸と別れた。が、今でもあの「ズッシリ」とした大きな船体、いたんだ船体を守ることが、頭から離れない。平和を守ることの大切さを強く感じた。

母と子の感想文

船橋市民生協のお母さんと子どもたちからの手紙



◆知らないことのこわさ

核の恐怖を改めて感じました。私は長崎で永井博士の本など読んだり、一応核のことは知っていたつもりですが、何度聞いてもこわいし、日本だけが広島、長崎、第五福竜丸の三度も被爆体験国です。現在も後遺症などで苦しんでおられる方々もたくさんいる国です。私たち日本人が二度と戦争をしないと誓うのと同じく、二度と核の被害者とならぬように努力しなければならぬと思っています。

私たちの世代で戦争を知らない人がたくさんあります。本当のこわさを知らない事が一番こわいことだと思えます。次の世代の人々も核で傷つくことのないよう祈りたいものです(主婦・小川理枝子)。

◆放しちゃうのはこわい

むかしの船は木でできていて、ねるところやへやはちいさくて、それで、げんばくよりすごい物を近くでおとされて、のっていた人

はそのしょうげきで放しちゃうのをあびてずっと入院していて、しんびるところ(小五・小川雄一郎)。

◆もっと勉強しなければ

夢の島公園に、第五福竜丸が展示されているなんて初めて知り、このような話があるなんて、説明の人がくわしく説明してくださり、原水爆のおそろしさが平和の人々に不幸にあったこと、それがいまの生きてる人にもきまずあとが少しのものこっていること、私は幸せな人々をみているので、もっと沢山のことを勉強していかなければいけないと思えました(主婦・寺戸京子)。

＊

◆おもいでのあるふくりゅうまる

おおきなふねでびっくりしました。ふねのなかもけんがくし、このなかで、みんながたべるさかなをとっていたすがたがうかびます。さんねんながらげんすいばくによ

って、みんなひどいめにあったことです。なんにもしらないひとがとつぜんにふこうになるなんてかたない、おもいでのあるだいいごふくりゅうまるです(小一・てらごこうすけ)

＊

◆無念さがひしひしと

子供のころに、ビキニの水爆実験で被爆した日本漁船のことは聞いていましたが、今日、その第五福竜丸の前に立ち、職員の方御説明を、子供達と一緒に聞きました。これが人間のやる事でしょうか。亡くなった久保山愛吉さんが、三人の子供さん達にあてた手紙があります。ひらがなを使って、やわらかい線が書かれた文字をじっと見つめていると、無念さが、ひしひしと伝わってきます。

原爆ドームもこの第五福竜丸も永久に保存してもらいたいものです(主婦・大林恵子)。

◆くやしいだろうな

第五福竜丸に乗っていた人達はアメリカの水爆実験のまきぞいになつて死の灰をあびてしまった。死の灰だとわからないから、なめたり、かじったりした。爆発音が



して、凄いが見えて危険だとわかったけど、大事な縄をひきあげるのに時間がかかった。一瞬のときごで、人生が変わってしまった。くやしいだろうな。アメリカは自分の国で水爆実験をしていれば、第五福竜丸の人達は、今もふつうの生活をしているはずだ(中二・大林雅明)。

◆思い出した「トビウオぼうや」

今日、第五福竜丸を見にいきました。初めに女の人に第五福竜丸の話を聞きました。だんだん話をきいていると第五福竜丸のこわい人がかわいそうでたまらなくなりまして。二年生の時、学校でならった「トビウオぼうや」のお話をおもいだしました(小五・大林隆之)。

◆とってもこわかった

だいがふくりゅう丸をのぼるのやおりるのはとってもこわかったです。だいがふくりゅう丸のちかにおりるのやのぼるのは、とてもこわかったです。ビキニのはなしはとってもこわかったです(小二・大林たつ也)。

一番心に残った社会科見学

東大附属中学校三年 本田 敬子

私達は、社会科見学として、第五福竜丸を見学しました。他に、森永工場米軍の横田基地も見学しました。当日は、天候も悪くなく、見学ができてとても良かったと思います。

私が一番心に残っているのは、初めに見学した第五福竜丸展示館でした。学校の授業で核戦争についてや、平和について勉強していたせい、一番強く印象に残り、また考えさせられるものだったからです。私達は戦争を体験したことはありません。ましてや、核、放射能という言葉にもいまひとつ人事のようにしか感じないのは事実だと思います。

木造のマグロ漁船「第五福竜丸」は一九五四年(昭和二十九年)、三月一日太平洋マシーナル諸島のビキニ環礁における水爆実験による。被害をうけました。このアメリカのビキニ水爆は広島に落とされた原爆の約一〇〇〇倍で、例えば、この水爆が東京に落ちたとすると、第五福竜丸は一五〇Kmの地

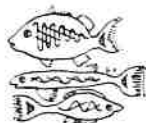
点、清水あたりにいたことになりました。しかし、この地点でも夜明け前にかかわらず、非常に明るくなり、煙柱があがり、二時間後には死の灰をあびたということです。この灰を浴びた船員達は、毛が抜けてゆき放射能の障害で亡くなっていたそうです。

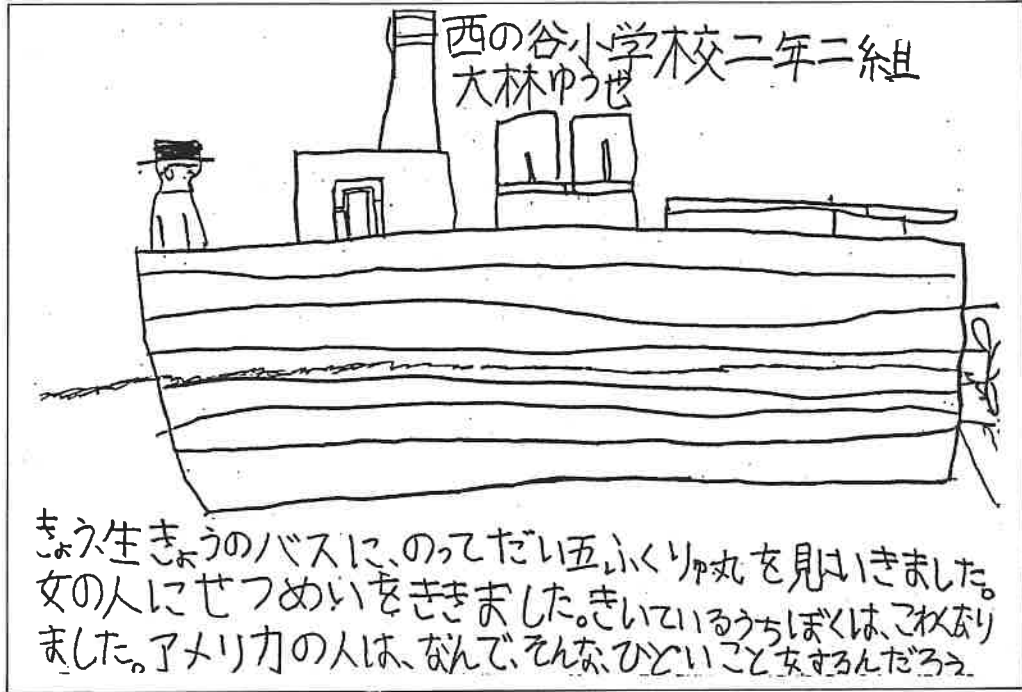
日本で、このことを新聞などで問題にされると、アメリカ政府は航行禁止区域を八倍にし、事実のもみ消しにのり出し「日本人漁夫がうけた負傷はたいしたことはない」日本人が漁業以外の目的(スパイ)で実験区域に来た「予想に反して風が南下したため、死の灰をふらせた」など見事な言いがかりをつけました。私はこの事実を知り、ショックをうけ

ました。アメリカの実験に何の罪もない日本の漁船がまきぞいをうけ、その上に事実をもみ消していったということ。かわいそう、ひどい、気持ちを表すのに言葉はたくさんあります。しかし、私は何の言葉も言えませんでした。「平和」という言葉はよく耳にし、口にし、でも、私達ははたしてこの言葉について深く考えているのだろうかという疑問が私には生

まれました。私がこの社会科見学で見聞きしたことはほんの少しだと思います。しかし、私はこのことで、あらためて深く考えなければと思えました。

私には、今回の社会科見学が一番心に残りました。





第五福竜丸は未来の地球
都立上野高校二年 石野晶子

私たちは、丸木美術館で大きな絵を見ました。館内のあらゆる壁が、その木炭色の絵でおおいつくされているのです。それは、近くでよく見なければ、人間であることなどわかりません。ただ、どろどろと焼けこげた丸太が、積み重ねてあるだけです。私は、視力が悪いので、眼鏡をかけなければ、よく見えないのです。けれど、私は眼鏡をかけませんでした。なぜでしょう？

その後行ったのは、第五福竜丸展示館でした。船は大きく、私にのしかかってくるようです。私は、そのぼろぼろになった船底に触れました。なぜか笑いながら、でも、どうして笑っていたのでしょうか？

私はわかっていなかったので、そして、それから目をそらしている自分を知っています。すでに私の心に刻みつけられている、原爆についてのすべてが、私に、もうこれ以上見たくはないと、言わせます。丸木夫妻の原爆の絵は、未来の私たちが、ぼろぼろに朽ちかけた第五福竜丸は、未来の地球です。いったいだれが、

そうでないと言えるでしょう。その未来を直視することは、私には恐ろしくてできないのです。

私だけではありません。世界中のほとんどの人々が、そうやって目をそらしているのに違いないのです。その間に、時は着々と進んで行き、軍備はどんどん大きくなっていきます。けれども今、私たちが、どんなに目をそらしても、見ずにはいられないほど、事態は悪化しているのです。

ここまで考えてきて、私ははっと気がつきました。原爆の絵や、福竜丸が、どうしてあんなに大きく感じたか。それは、物質的な大きさだけではないのです。中から、奥底から、大きな叫びがあったからこそ、それらは私たちに、ずっしりとしたかかってきたのです。私たちが、それに答えなければならぬ。目をつぶってはならない。そうしなければ、もはや、進むことができないのです。

ここから進み出すためには、世界中のすべての人々が、原爆の事実を知らなければなりません。原爆を、朽ち果てさせてはいけません。それは、私たちの、人類の義務なのだから。

♥なんでそんなひどいことをきょう生きようのバスにのってたい五ふくり丸を見にいきました。女の子にせつめいをききました。きいているうちぼくは、こわくなりました。アメリカの人は、なんで、そんなひどいことをするんだろう。(小二・大林ゆう也)。

＊

◆平和のありがたさ
第五福竜丸の実物(船内も見学しました)を見ることができ、案内の方から水爆の実験地点、乗組員の人達の被ばく後遺症、奇形の子どものパネルの展示物を見ているうちに恐ろしさ、平和のありがたさをつくづく感じ、子どもたちのためにもいい時代が続いてほしいと思います(主婦・関 節子)。

♥かわいそうだと思います
生協のバスで第五福竜丸を見にきました。船が古いで補修工事が大変だったと聞きました。水爆の被害にあった乗組員の人たち、島の人たち、みんなかわいそうだと思います(小四・関 真由美)。

＊

◆本当の事実は何？
「第五福竜丸」という名前は聞

いたことがありましたが、こんなにわくわく、いろいろなことは知りませんでした。被ばくした人やその家族の人たちは、その後の生活や人生まで変わってしまったことですが……。本当の事実はどうやむやにされてしまっただろうなってしまったのでしょうか(多田とよ子)。

◆ほんもののふね

おおきくて、ほんもののふねをみたのははじめてです(多田智亮)。

＊

◆子供に語り続けていきたい
第五福竜丸展示館の趣旨をお聞きして、私も含め、一般の人々にとっては広島や長崎の原水爆のこととはかなりわくわく知れわたっていても、知っていないつもりでもいたが、この第五福竜丸のことを今日くわしくお聞きして、身近に起きた不幸な出来事を再び思い起こされ、久保山さんの最後の言葉を忘れることなく、見学に来る人たちが、本当の平和を願い、気持ちを新たにさせられるだけでも沢山の方々が協力して展示館を建設なさった苦勞が報われるのではな

の役目は、この様な出来事を子供や孫の代までも語り継いでいく事ですが……。

本日は貴重なお話をありがとうございました(主婦・梅原君江)。

◆おおきなふねをみれてうれしかった(うめはらみどり・六才)。

＊

◆子供に説明できない事実
夢の島公園内に第五福竜丸展示館があるということさえ知りませんでした。幸い小さい子供が沢山いたにもかかわらず船内を見学させていただき勉強になりました。あの防腐剤の臭いが二三年前の船員たちの苦しみといかりのような気がしてぞっとしました。

わが娘二人(七才と五才)は三年前に何がおこったのかも理解できないままに船の中を走り廻っていました。ただ、どうしてこの人、手がないの？指が六本あるの？とききます。アメリカの人が水爆実験というものをして、その時にね、大変な放射能をあげたの。そういう人達から生まれた子供がこんなふうになっちゃったのよ。とかいつまんで話してやると二人の娘は写真をジーンと見て、やだ



♥とても大きな船でびっくりした(小二・あきばなおこ)。

＊

「こわい」と言いながらも見ています。二十年、三十年後に被爆症状が現われるなどと思うとおそろしくなりません。そして今なお原水爆の実験が行なわれている事実を子供にも説明できないものがあります。

「そんなにこわいことやめればいいのにね」と子供は言う。

「そうね」としか言えない大人。良識がある大人達が原水爆実験などという恐ろしい事をやめない限り、久保山さんの願いはかなえられないと思います。

最後に、ていねいに説明してくださりありがとうございました(主婦・伯耆まよ子)。